

Study on Landscape Recognition that Uses Image Processing Technology by Local Inhabitants in Kamakura

Journal of Asian Architecture and Building Engineering Vol.8/No.1/pp.151-158/2009 年 5 月

正会員 山田 悟史 君

本研究は景観の地形的・建築的な要因による可視領域の広がり、住民の認知領域の関係を分析する3次元モデルを用いた画像解析手法を確立し、そこから視覚領域の複雑性を定量化したフラクタル次元と心理的な景観意識との間に一定の関係性を見いだした。景観の可視領域の分析研究のなかでフラクタル次元による複雑性の評価は国際的に見ても例が無く、我が国のように自然地形との関係に敏感な環境デザインが求められる地理的文化的背景をふまえれば、この解析手法の応用可能性が期待でき、その成果は新規性および計画的な有効性の面から高く評価できる。同時に本研究は複数の国際学会などで発表されており、国際的な学術的知見の交換に継続的努力をした結果として景観に関する我が国の文化的な特徴を情報技術の計画学への応用という学際的分野で発信した点も他の研究に無い功績である。以上のように、本研究は奨励賞に相応しい独創性の高い優れた内容となっており、さらなる発展に大変期待を持たせる。